

曰く、富國の要素は凡そ三あり。第一石炭、第二産鑛、第三國民の工業智識。特に第三を以て肝要とす。(中略) 科學者は高尚なる空理に馳せて、有力なる實理に疎く、職工は生計の途に苦みて、智識を求むるの暇なし。學理と應用との分離、これ當今の大患なり。以上の説にして、實施せらるゝに至らば、恐らくは、此大患を治するの端緒を開くに至らん乎。吾輩は其の一日も早く實施せられんことを切望す。

と期待してゐる。而して森子が文部大臣在職中、不慮の災厄に罹りて此の世を辭したること、井上子が宿病と闘つて、學制改革の實績に専念しつゝ、二十七年八月二十九日を以て職を辭し、翌年三月十五日を以て、從容として世に即いたことは、殆どその軌を一にするものである。龍南人は、第三十五號に於て、「前文部大臣井上毅子薨去」と題して、敬弔の意を表してゐる。

前文部大臣井上毅子、宿病ヲ返子ニ養ハレシガ、藥石效ナク、三月十七日溘焉トシテ遂ニ薨去セラレヌ、痛恨何ゾ已マン、子ノ職ニ在ル、鞠躬精勵、不續大ニ學ル、旻天無情、其歲ヲ奪フ、噫悲夫、謹ンデ哀悼ノ意ヲ表ス

三高及  
造士館よ  
りの轉學

而して第三高等學校は、大學豫科を廢せられて、本校へ約六十名來り、鹿兒島高等中學校造士館は、文部省の所管を解かれて廢校と爲り、同じく五十六人の轉學を見たのである。

## 第二節 日清戰爭當時の龍南

龍南校風の歴史に於て、日清戰爭は國を擧げて大敵清國と戰つただけ、流石に青年子弟にも相當緊張味があつ

龍南會  
誌中の行  
軍に關す  
る記事

たばかりでなく、風雲急なる影響は、その以前より察せられるのである。而して日清戰爭後の十年間は、臥薪嘗膽の時であつたと云へ、國民一般の風氣の上には、可なりの隆替があつたやうだ。これこの一節を設くる所以である。今その例を示せば、明治二十六年十二月二十日發兌の龍南會雜誌第二十一號に依れば、この年の行軍に就いては左の如く記してゐる。

到る處歡迎如何に鄭重なりしよ到る處の江山如何に秀麗なりしよ今回の一行校威を四州の要樞に伸張し得天下の名社に養し天下の名山水を踏むを得たり歸來胸懷殆んど昔日のものにあらざるを覺ふ特に吾人行軍中校長以下諸先生が毎事生徒と勞苦を分たれたるを感謝す今や天下到る處師弟反目の風ありと聞く吾人は寒村銃を枕にして寐ね早起霜風の叫哨たるを衝いて發するとき顧みて諸先生の吾人へ親しきを見る毎に吾人は一團の春風來りて吾面を拂ふを覺えずんばあらず

豊筑修學  
旅行日誌

讀りて洵に欣懐に堪へざるものがある。又、豊筑修學旅行日誌を引けば、

(前略)(十一月六日)十時全員練兵場に整列し、沼田大尉指揮して隊伍を部署す(中略)部署已に定まる、中川校長乃ち進み出で、告げて曰く、夫れ修學旅行は一種の課業なり、其地理歴史博物其他百般の學術上、大益あるは固より論を俟たず、然れども此行を以て行軍と通稱する所以は、一の規律を守ること一、艱難辛苦に堪ゆること一、氣質鍛鍊を實習することの三點を、嚴守せしむるにあり、されば諸子は行中終始、沼田監督の命を奉じ、敢て或は背くこと勿れ、嚴正の舉動を失はず、以て我校の名聲を發揚せよ、飲酒する勿れ、買喰する勿れ、以て大に費用を節せよ」告示終る、乃ち晝餐を喫し、十一時嚴令一發、行を啓く、喇叭嘯唳校門を出づ

豪氣堂々、歩々正々、又光白日に映して光閃々、劔戟相摩して響鏘々（中略）教職員生徒凡て二百五十餘名（下略）

大婚満二  
十五年奉  
祝と龍南

以て當時の意氣を想見すべきである。然るに二十七年三月九日に舉行せられたる、天皇皇后兩陛下大婚満二十五年奉祝の際の如きも、式後體操場に入り、全員を分ちて四隊と爲し、一百の銃口一齊に十二發の祝砲を放ちたる後、相率ゐて食堂に入つて祝杯を挙げたのであるが、雜誌記者は、「しかも萬歳の聲は校内處々に絶えず、萬歳萬歳の聲愈々盛なる頃、百一發の砲聲は遙かに銀杏城頭に起れり」と記してゐる。且又、同夜の提灯行列の如きも「四百の球燈は綺羅星の如く輝き、四個の大き高張提灯は、各中隊の眞先に打立てられて進み行けり、校長以下教職員諸先生も總て行列中の人なりき、「春の彌生は今宵しも」城中くまなき賑ひの中を蕭然魚貫して祝歌（黒本助教授作歌）高らかに「八十の衢」を歌ひ巡り、九時漸く校門に歸れば、轟然一聲、爆竹は一行の壯學を迎へたり（中略）校に還りて少時休憩の後、雨天體操場に入りて祝宴を開けり、（中略）席定まるや、隈本君の演説あり、池田君、水月君、中村君の吟詩あり、受樂院、和木君の吟歌あり（中略）是にて一先づ段落を告げ、酒と竹輪とは配られたり、酒三行、場の一隅に設けられたる爆竹は點火されたり（中略）既にして、幕を排して蕭然現れ出でたる五人の武士、こは病室生徒の劍舞なりき」とも記してゐる。而してその後「學問の衝突」、「鴻門の會」、「開國始末」、「妖怪退治」、「劍舞」、「各國人」、「宇治川先陣」、「狂言」、「謠曲」、「劍舞」等の餘興に打興じたる様の如何に緝熙和樂せしことか。故に記者は、「嗚呼是れ千載の一遇、無上の大典、また無上の盛事なかるべからず、龍南當日の盛況、其萬一を録すれば大凡右の如くなりき」と結んでゐるのである。

永井書記  
の葬儀

故平山校  
長の三年  
祭

中川校長  
の訓告

尙、茲に特筆して置きたいのは、同年五月二十七日、書記永井孝一氏の逝去に際し、翌二十八日午後の市内見性寺に於ける葬儀には、午後臨時休業して職員生徒一同會葬し、笠間教授の職員總代弔辭あり、龍南會また香典を供へ、各部の稽古を休みて弔意を表したることである。又、六月八日雨天體操場に於ける故平山校長の三年祭執行の如きも亦、龍南美風の一と稱すべきであらう。

然るに同年七月十日の卒業式の際に於て、中川校長は、學事報告として、生徒現員三百九十九人、内本科生は卒業生四十二人を加へて一百六人、豫科二百六十人、補充三十三人。入學者七十九人、内他の高等中學校より轉學せし者三人、尋常中學校卒業者五十六人、入學試業合格者二十四人。退學者六十四人、内他の高等中學校及尋常中學校に轉學せし者十人、願に依り退學せし者四十九人、除名二人、死亡者三人等の數を列舉したる後、來學年に於ては、全く補充科を廢して、本科一年以下の各級に、若干名を募集するが、其の志願者百餘名あり、而して区域内の卒業生にして無試験入學者凡そ七十餘名、第三高等學校より轉學する者、本科豫科を併せて凡そ六十人、又、該校設置區域所屬の兵庫・島根・愛媛・高知・香川各縣尋常中學校も、本校區域となつたので、生徒も二百名位は増加する見込、又本科第二部に農科を加へて、既に本學年より實施したこと、教員は、教授十三人、助教六人、囑託教員四人、雇教員一人、外國教師一人、凡そ二十五人。卒業生四十二人中、入學試業に合格して入學せる者二十三人、他高等中學校よりの轉學者四人、本校区域内各尋常中學校卒業生にして、無試験入學者十八人など詳報せる如く、本校も次第に複雑性を加へて來たにつけても、同年九月の入學式に於て、校長より我校園有の校風として、禮儀を重んずること、武勇の氣象に富めること、儉樸質素を守ること、廉耻を貴ぶこと、國

家的觀念に富めること等を列擧して訓告せしことの、故無きに非ざることが知られるのである。

第一回  
清軍戰勝  
祝賀式

かくて九月二十九日を卜して、第一回征清軍戰勝祝賀式は雨天體操場に於て催され、拜賀の後、中川校長は、恭しく、宣戰の詔勅及び海陸軍に下し賜はれる 勅語を奉讀し、次で學校長に和して、大元帥陛下萬歲、大日本帝國萬歲、陸海軍萬歲を唱へて式を終つたのである。二十七年十一月より十九日まで行はれたところの秋期行軍に就いては、第三十一號にも、「且つや旅順の港灣海濤騒ぎ、鳳凰の城頭戰塵揚るに際す、吾人は武を練り軀を鍛ひ、以て元氣を振起するの必要を感じ、然り、吾人の元氣は大にして國家の元氣たるべく、小にしては我校の元氣たるべし、(中略)嗚呼行軍なるかな、行軍なるかな、行軍の愉快と利益とは、吾人永く之を忘却することを得ず、云々」と讚美してゐるのも、時局の青年に及ぼせる影響を見るべきであらう。

二十七年  
の行軍

既にして威海衛の堅壘も遂に皇軍の手に歸したので、二月十一日紀元節の日午後三時を卜して、第三回征清軍戰勝祝賀式を擧行したのであるが、第三十四號には、「秋月先生起て舞ひ、中川學校長朗吟す、拍手歡呼哄然天に震ふ、飲む者あり、食ふものあり、歌ふ者あり、舞ふ者あり、午後五時に及びて漸く散會せり」と報じてゐる。且又、西森・大峰・武藤三名の小使が、第一充員として應召出征せるに對しては、老親妻子の飢餓に瀕せるを憐み、「衆皆金を捐て之を救恤し、以て出征者をして後顧の患なからしめたる」が如きも、美譽と謂ふべきである。

第三回  
征清軍  
戰勝  
祝賀式

かゝる間にも本校に在りては、二十八年五月二十七日を期して、擊劍柔道の二科が體操副科に加へられ、やがてその實施を見るに至つた。

應召小使  
の家族へ  
の義捐金  
體操副科  
擊劍柔道  
實施

即ち左の如き掲示文が遺つてゐる。

開校紀念式の歌

あその みねより いやたか き きみが みかげに  
たてそめし まなび— どころの さかえゆ—く  
そのもと つひぞ— ことほぎて もとに むくいん  
まごころ— の あかきは やがて— ひのものの  
ひかり— ともなり おほきみ— の みいづや ちよに—  
かがやか— む みいづや ちよに かがやか— む

開校紀念式の歌

阿蘇の峯よりいや高き

君が御蔭に立て初めし

學びどころのさかえゆく

その本つ日をことほぎて

本にむくいん真心の

あかきはやがて日の本の

光ともなり大君の

御稜威や千代にかんやかむ

御稜威や千代にかんやかむ

體操副科柔道擊劍ノ中必ズ其一ヲ撰定シ來五月四日迄ニ教務掛ニ届出ベシ  
但兩科併修ノ者ハ其旨届出可シ

右揭示ス

體操副科柔道擊劍ノ授業ヲ別表時間割ニ據リ來週月曜日(五月二十七日)ヨリ相始ム

病氣其他ノ事故ニヨリ出席シ能ハザル時ハ本人ヨリ其翌日迄ニ教務掛へ届出ベシ但シ通學生モ保證人ノ連印  
ヲ要セズ

右相達ス

開校紀念  
の歌

而して同年十月十日の第五回開校記念會も、極めて盛大に舉行せられたが、明治二十八年十一月四日發行の龍南會  
雜誌の雜報には、「最後に生徒一同祝歌を唱ふ。聲韻悠揚、滿場、爲に震ふ。是にて式終り云々」と記し、文苑欄には、

第五高等學校開校紀念の歌

助教授 園 哲 雄

阿蘇の峰より

いや高き

君が御蔭に

立初めし

學びどころの

さかえゆく

その本つ日を

ことほほぎて

本にむくいん

真心の

あかきはやがて

日の本の

光ともなり

大君の

御稜威やち代に

かゝやかむ

の歌詞を載せてゐる。二十五年十月の第九號文苑には、かみな月十日第五高等中學校開校紀念會の歌園哲雄稿と  
して、「かしこき御代のはたちまり、三とせのかみな月にしも、まなびどころの熊本の、立ちし今日こそ嬉しけ  
れ」以下三節を載せて居り、二十七の記念式に就いては、「終て生徒一同祝歌「治る御世」の曲を合唱し、これ  
式全く終り云々」と記されてゐることから察すれば、「開校紀念の歌」なるものは、明治二十八年以來のことであ  
ることが知れるが、作曲者は不明である。又、我が校風の確立士氣の振作に、長へに銘記せらるべき秋月韋軒翁  
に對する惜別の情に至りては、惻々として胸に迫るの感あらしめるものがある。

而して本校よりは、校長の名を以て、熊本縣警部長山之内一次氏宛、左の如き照會の公文を出してゐる。

興行物に  
關する照  
會の公文

當校近傍ニ於ケル芝居見世物等ノ興行ハ生徒ノ教育上頗ル迷惑ヲ感じ候儀ニ有之候條自今飽田郡黒髮村大字下  
立田以西坪井三軒町以東ノ地同郡清水村大字室園菊池街道以東ノ地竝ニ熊本市小幡町七軒町藥園町以東ノ地ニ  
於テ右等ノ興行願出候節ハ可成御許可無之様御注意相成候儀ハ難叶哉此段及御協議候也

學校當局者の心事、洵に多とすべきであらう。

兎狩の壯  
舉

二十八年十二月一日をトして催された兎狩も壯舉であつた。この日東山組は第一第二の二手となり、前日阿蘇  
郡錦野村に宿し、西山組は當日午前二時半校門を出てだが、前者は各四十名許り、後者は約七十名、東山第一組は  
兎五頭、第二組は兎四頭と山鳥一羽、西山組は兎七頭の獲物があり、且日午後雨天體操場に於ける矢開きも亦、

武裝検査  
副科を正  
科に準せ  
しむ  
寒稽古の  
盛況

第六回紀  
念會

快なりと謂ふべきであらう。而して又同月十六・十八の兩日には、武夫原に於て丁寧なる武裝検査があり、終りて後分列式が行はれたのであるが、記者は、「眞にこれ風紀上、平生の苦心を表彰し且將來に偉大の効果を收むる良法に非ずして何んぞや」と書いてゐる。而して二十九年四月十七日、自今副科を正科に準せしむべき由を揭示したが、同年の寒稽古に至りては、「瑞邦館裡顛例の響高く、體操場内憂々の音急なり。出席者常に百五十名に上るに至りては、亦盛なりといはざるべけんや」の記事も頼もしく、修學旅行記事に於て、「晨光決滌、紅曦未だ升らず、萬籟靜寂、曉夢正に濃なり、倏ち聽く本邦樓上、一昂一低、一緩一急、吟聲錯綜して頻に起るあるを、蓋し諸先生の合唱なり。健兒驚き覺めて、元氣愈振ひ、驟起を蹴て戎裝を整ふ。」の一文も味ふべきことと思ふ。

校則の一  
部改正

然るに同年には、校則の一部と、倫理講筵とが改正せられた。先づ、校則の改正に關しては、第三學期試業を全廢し、第一學期試業に缺席せる者には、第二學期試業得點の二分の一を與へ、第二學期試業に缺席せる者には第一學期試業得點の二分の一を與へることとなり、無届缺席者には、これまで監督教官より注意を與へ、尙悛めずして同一の所行二回に及ぶ時は、校則第五章第十八條に照して、校長より戒飭を加へ、而も尙悛めずして三回

倫理講筵  
の改正

以上に及ぶ時は、同規則に依り、事情に従つて夫々處罰してゐたのを、次に述べる倫理科よりは減點すること、せず、その他に於ては、無届一回五點、二回七點、三回十點、四回十五點、五回二十點、以上一回毎に五點を累加すること、但、歸省等の爲に連續數日に互る時は、之を一回と見做すこととなつたのがそれである。

次に、倫理科に關しては、在來の倫理が、動もすればその本來の面目を失して、成績に拘泥せしむる傾向があつたので、此の際大いに改革して、各年級を合して、毎週一回、瑞邦館に於て講筵が開かるゝこととなつたのである。而してこの無届缺席の減點と云ひ、倫理講筵の改正と云ひ、之を大にしては國民精神の弛緩であり、之を小にしては青年子弟の墮風の然らしめし結果と斷ぜざるを得ないのである。我が校に在りては、その事例を次の宣誓式の實施に於て見出すのであるが、それも決して卒然として起つたものでなく、二十九年二月十日に掲示された紀元節・天長節・入學式・卒業式・紀念式・招魂祭參拜・武裝検査・修學旅行・野外演習等の際に於ける無届缺席者への戒告や、中川校長の演説や、その他雜誌中の記事にもその片鱗が現れてゐる。

中川校長  
の演説

#### 中川校長の演説

過般上京せられて高等學校長會議に列し、教育會の現況及び一般の社會の趨勢を視察して數日前無事歸校せられたる我校長には六月七日午前十一時教員生徒一同を瑞邦館に集め一場の演説をなされたり。先づ戰勝後の餘勢として、我國實業の勃興したることより説き起され、「外見上國運の進足著しきが如くなれど裏面より觀れば心ある者をして墮落せしむること一にして足らず。各種の事業を起すもの少からずと雖も、眞に國利の進捗を計るの意に出でたるは甚だ稀に、各自私益を營み、汲々として錙銖毫厘の末利を争ひ互に排擠陥穽して天下大

勢の何者たるを解するの識なし。其弊や社會全體を誘ひて之を腐敗せしめ、人心日に輕薄に、風俗月に華奢に流れ、學生の風儀も其影響を受けて敗類するに至りぬ」と慨し「諸子は此險惡なる風潮の下に立つて之に動かされることなく、確乎として進まざる可らず、諸子はこの腐敗せる空氣に感染せざる様勉めざるべからず。」と吾人の本分を示され進んで我校の特長を擧げ「益々これを發揮して日本學生の模範と仰がれ、標準と推さる、様一層奮發する所なかる可らず。」と勵し、校長の在京中、龍南同窓會に臨まれしが、其席に於ても五高の特風を維持すべきよし望まれしを言ひ、「他校出身の大學生は料理店などに高會するに引かへ、獨り龍南同窓會は質素に、儉約に、寺院に開くが習ひ、此度は上野の韻松亭に於てせり」と誇られ、話頭一轉、近頃缺席者増加したり、若し放逸に傾きたりとすれば、恐るべき兆候にあらずや」と注意せられ、「修學上不便のことあらば遠慮なく申出らるゝは差支なけれど、斯る不勉強の形跡を止めざる様諸子相戒めて我言を實行あらむを希望す。」とて滿場肅たる間に壇を降られたり。

織塵も拂はずんば五嶽將に成り、清水も停めずんば四海將に盈んとす。今この針砭を賜はる、吾人豈に刻心鑠骨服膺せずして可ならんや。(三〇、六、二九第五十八號雜報)

これに依れば、當時に於て物質文明を謳歌せる社會風潮の一斑が知られるが、中川校長がかゝる訓告を敢てしたことを裏書する二三の記事を擧ぐれば、

龍南會雜誌の記事

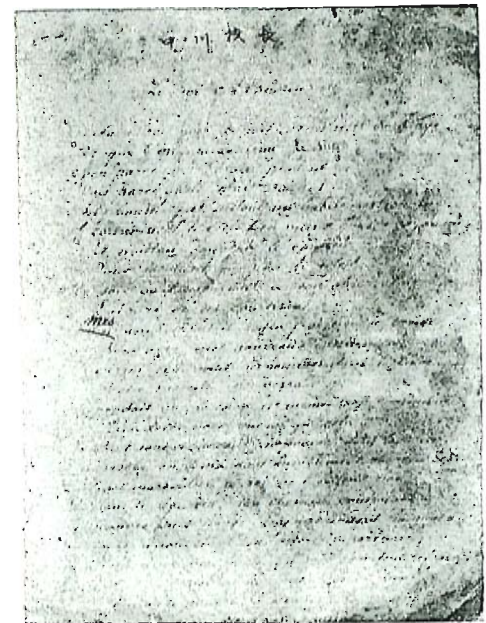
吾人は之を數年以前に比して如何となく自らは等道德に關する議論を聞くの熱心を増したるを覺ゆ。

こは余のみにあらずして讀者の多くも亦然らんことを信す。其原因果して何ぞや、近年に於ける吾邦道義の衰

退即ち是れ也。(三〇、二、一〇、第五十三號批評欄)

(前略)このころ着帽着袴の事案れたりといふべし。(中略)着帽着袴、事些事に似たりと雖、學生の品位を保持するに於て、寧ぞ等閑に附すべき。諸君願くは猛省ありて可なり。(三〇、三、三〇、第五十五號雜報近事片々)

(前略)雖然半千に超ゆるの學徒を容して咸く之を誘掖し指導せんと欲す、從ひ當局の篤志を以てすと雖、事或は志と相從はざる者あらん、本學年に於ける放校者の多數、以て見るべき也、(中略)六月の交腕車を連ねて南に馳する者多きを以て見るべからずや、(三一、五、二〇、第六十五號雜報)



中川校長の佛語試驗問題

以上は、日清戰爭當時竝にその後一兩年間に於ける參考資料の幾分を擧げたに過ぎぬが、戦後社會人心の動搖は、吾が龍南の校風にも、尠からぬ影響を及ぼしたことが知られると共に、宣誓式舉行の前奏曲とも見ることが出來よう。

而して二十七年七月二十一日、文部省令第十八號を以て定められた大學豫科規程の學科課程は、次に掲げる翌

學科課程の改正

二十八年乃至二十九年の本校一覽中の學科課程表に示す如く、相當の變化があり、殊に、一部文科第三學年に於て、漢學科、博言學科・獨逸文學科、英文學科、佛蘭西文學科及び其他の學科と分ちたるが如きは、大學豫科の面目歴然たるものがあるのである。又、同年九月二十九日制定の尋常中學校入學規程に依れば、滿十二年以上にして、高等小學校第二學年修了者、若くは同等の學力ある者に、第一年級に入學を許すこととしたのは、従來高等小學校卒業者に許したことに比して、著しい進歩である。

第一部課程表

大學豫科第一部(法)(文)課程表

倫理及漢文	國語及英文	英語	獨語	佛語	歷史	地理	算學	第一年		第二年		第三年	
								法	文	法	文	法	文
一	六	七	七	七	四	(三)	(三)	一	六	一	六	一	六
一	六	七	七	七	(六)	三	三	一	六	一	六	一	六
一	二	六	六	九	三	三	三	一	六	一	六	一	六
一	一	六	九	三	三	三	三	一	六	一	六	一	六
一	一	六	六	六	三	三	三	一	六	一	六	一	六

動物及植物	論理	經濟通論	法學通論	體操	計
					三一
(三)	三	(三)	三	三	三一
			四	三	三一
	三	三	三	三	三一
	三	三	三	三	三一
	三	三	三	三	三一
	三	三	三	三	三一
	三	三	三	三	三一

法科志望者ニハ獨語佛語ノ内一ト數學物理トヲ缺ク

文科ニ於テハ佛蘭西文學科志望者ニハ獨語ヲ缺キ其他ノ學科志望者ニハ佛語ヲ缺ク

文科第一年ニ於テハ地理若クハ數學ノ一ヲ缺キ第二年ニ於テハ經濟通論ヲ缺ク

第二部課程表

大學豫科第二部(工)(理)(農)科課程表

倫理	國語及漢文	英語	第一年		第二年		第三年		
			工	理	工	理	農	科	科
一	五	八	一	五	一	三	一	六	一
一	三	八	一	三	一	三	一	六	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一



